

## 政策6 夢を育む教育の推進

### 施策16 学校教育の充実

#### 現況と課題

学校は、子どもたちの学力、体力、情操や社会性を育む教育の場であり、子どもたちが楽しく、元気に、安全に学校生活を送ることは社会全体の願いです。

本市は、「学びあい 高めあい 支えあう 子どもたちの育成」を理念に学校教育を推進し、学校施設の長寿命化や大規模改造による児童生徒の安全の確保や時代に対応する情報教育などを進めるとともに、学力の向上、環境教育や国際理解など様々な体験を取り入れた教育に取り組んでいます。また、特色ある学校づくりとして、平成26年度からは、学力向上や土曜授業の活用、外国語教育やふるさと教育など、数種類の研究のいずれかにすべての学校が取り組む「一校一役教育研究」を進めています。また、保育所・幼稚園と小学校との連携、小中学校の連携など、切れ目をつくらぬ指導にも力を入れ、スクールカウンセリングのほか、障害の有無に関わらず、ともに学ぶ環境づくりや特別支援教育などの充実も図っています。

これらの取り組みの結果、近年学力は向上してきており、今後もこの取り組みを継続していく必要があります。

一方、学校教育の課題は、不登校やいじめなどの問題をはじめ、特別支援教育や学校の防災・防犯などへの対応等、多岐にわたっています。

特に不登校については喫緊の課題であり、1人1人を大切にす魅力あふれる学校づくりに努めるとともに、要因分析に基づく解決や未然防止に努める必要があります。

また、児童生徒数の減少が進行していることから、一定の教育環境の確保を図るため、学校再編を進めていく必要があります。今後とも、子どもたちが安心して将来の夢を育み、のびのびと育っていくことができるよう家庭、地域の連携により一人ひとりを大切に育む学校づくりを進めていくことが重要です。

一方、高等学校教育については、義務教育課程との連携強化を図りつつ、グローバル化や情報化、少子高齢化が急速に進む社会情勢のなか、郷土への愛着と誇りを大切にしながら、高い志を持ち、各分野で地域の将来を担う人材育成が求められています。また、大学等の高等教育については、少子化はもとより若者世代の流出が顕著な状況のなか、地元での専門的、高度な知識や技術の習得できる機会の確保、交流人口の拡大、地域活力の醸成などを図れるよう、高等教育機関の誘致を目指します。

#### ◆目標指標

指 標	現 況	目 標
全国学力・学習状況調査における各教科の正答率	全国平均との差 (H31) (単位：ポイント) 小学校：国語+7.1、算数+5.6 中学校：国語+6.0、数学+5.4	(全教科) 小学校：全国平均+5ポイント 中学校：全国平均+3ポイント 小学校、中学校ともに全国上位
全国体力・運動能力、運動習慣等調査におけるT得点	(小学校5年生：H30) 男子 53.8点 (全国比-0.4) 女子 56.8点 (全国比+0.9) (中学校2年生：H30) 男子 48.7点 (全国比+6.4) 女子 53.2点 (全国比+2.6)	(小学校) 全国平均以上 (中学校) 全国平均+3ポイント以上
小学校不登校児童数 (1,000人あたりの出現率)	8.8人 (H30)	全国平均並み (H30：4.7人)
中学校不登校生徒数 (1,000人あたりの出現率)	52.6人 (H30)	全国平均並み (H30：30.1人)

#### 関 連 計 画

名 称	策 定 年	計 画 期 間
学校教育振興基本計画	R1	R2～R6

## 主な施策

施策名	内 容
1 夢を育む学校づくりの推進	<p>①発達段階に応じた連続性のある教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保幼小連携、小中連携などにより、幼児期から青少年期まで発達段階に応じた連続性のある教育体制を築きます。</li> </ul> <p>②学力向上への取り組みの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種学力調査の結果をもとに成果と課題を検証・分析し、チーム学校として組織的な学力向上を目指します。</li> </ul> <p>③一人ひとりに寄り添う教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーや外部の専門家を活用し、教職員の指導力の向上、家庭・地域との連携強化を図り、不登校やいじめ、思春期問題等に対応していきます。</li> <li>特別支援教育など、障害の有無に関わらず、ともに学ぶ環境づくりを進めます。</li> </ul> <p>④教育風土づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもてる児童生徒を育成するふるさと学習や、環境学習、国際理解教育、情報教育、職業教育など、社会性や様々な経験を育む体験的な学習を充実します。</li> <li>「一校一役教育研究」による特色ある学校づくりの推進や学校紹介ホームページの充実など、魅力ある学校づくりに取り組み、学校の主体性ととともに、児童生徒の自主性を育みます。</li> </ul>
2 安全で健やかな学校生活の支援	<p>①学校の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設の適切な維持管理と整備を進めるほか、防災設備、安全設備等の適切な更新に努めます。また、定期的な防災・避難訓練など、学校防災に努めるとともに、スクールガードリーダーとの連携などにより防犯体制の整備に努めます。</li> </ul> <p>②学校給食、学校保健の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の食材を取り入れた食育の推進を図るとともに、食物アレルギーへの対応にも取り組みます。</li> <li>成長期にある児童生徒の心身の健康を守る学校保健を充実します。</li> </ul>
3 教育体制・教育環境の充実	<p>①教職員体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の資質・指導力の向上を図るとともに、外国語指導助手（ALT）の活用など、教職員体制の充実に努めます。</li> <li>労働環境の改善や業務の効率化など働きやすい学校づくりを進めます。</li> </ul> <p>②学校情報化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校間のネットワークの活用や教育データベースの充実など、さらなる情報化とその環境の活用を進めます。</li> </ul> <p>③地域の中の学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育の機会均等を図るため、四万十市立小・中学校再編計画（第2次）に基づき、学校の再編を進めます。</li> <li>学校・家庭・地域の連携により、学校支援地域本部事業に取り組むとともに、地域での体験学習を通じ、地域の教育力の向上に努めます。</li> </ul> <p>④高等教育機関の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門的、高度な知識や技術の習得できる機会の確保、交流人口の拡大、地域活力の醸成などを図れるよう、高等教育機関の誘致を目指します。</li> </ul>

## 施策17

## 青少年・若者の育成

### 現況と課題

子どもたちの心や社会性は、学校教育のみならず、家庭や地域、社会全体で育まれます。本市においては、就労している保護者が多い環境にある中で、放課後児童健全育成事業、放課後子ども教室推進事業により放課後や長期学校休業期間における子どもの居場所づくりを進めています。

また、青少年が育つ過程では、生まれ育ったまちの歴史や自然、文化、産業の特性について具体的に知り、それを踏まえて自分やまちの将来について考える機会を持つことが重要です。青少年健全育成として、こういった機会を提供できるよう市内及び県内の高等学校等と連携した体験事業や、まちあるきイベントなどを開催しています。

一方、問題行動や犯罪など、青少年や若者を取り巻く様々な問題があります。また、公園等での迷惑行為、青少年の深夜徘徊などには一定の落ち着きがみられますが、インターネット利用による様々なトラブルや危険の発生等の増加が懸念される状況にあります。

このため、街頭巡回、相談活動、環境浄化活動などに取り組むほか、「薬物乱用防止教室」「防犯教室」等を開催するなど、警察との連携を図っています。青少年や若者の問題が多様化、深刻化する中で、悩みや不安を受け止める親身な相談対応が重要です。また、普段の生活の中で一人ひとりが尊重され、心豊かな環境の中で主体性を育ていけるよう、学校、地域、家庭がそれぞれの責任と役割のもとに相互の連携協力によるサポート体制の強化が求められています。

### ◆目標指標

指 標	現 況	目 標
年間平均補導人数	9.2人 (H26-30年度平均)	10人以下
情報モラル教室の開催	19小中学校 (H30)	計画期間中に全小中学校で実施

### 関 連 計 画

名 称	策 定 年	計 画 期 間
子ども・子育て支援事業計画	R1	R2～R6

## 主な施策

施策名	内容
1 青少年の自立・交流の支援	<p>①青少年活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会の活動を支援します。</li> <li>学校の部活動のほか、地域スポーツクラブや地域文化の伝承活動など、地域における青少年の活動・活躍を支援します。</li> </ul> <p>②若者の自立・交流支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者サポートステーションと連携し、若者の就労を支援します。</li> <li>若者の公民館活動等への参加促進や婚活サポート等、若者が活動・交流できる場の提供に努めます。</li> </ul> <p>③放課後の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放課後児童支援員に必要な知識・技能の向上に取り組むとともに、人の確保について支援します。</li> </ul>
2 青少年健全育成活動の充実	<p>①見守り活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少年補導センターによる街頭巡回を実施し、指導・助言を行います。</li> <li>防犯パトロール活動などを通じて、地域住民による青少年・若者の見守り活動を充実します。</li> </ul> <p>②環境浄化活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や関係機関の協力を得ながら、まちの中の有害情報の除去に加え、インターネット接続機器のフィルタリング（有害サイトアクセス制限）の設定等、保護者への啓発に努めます。</li> </ul> <p>③相談・指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校での「薬物乱用防止教室」「防犯教室」「情報モラル教室」等の継続・充実に努めます。</li> <li>学校・教育研究所、少年補導センター、児童相談所、民生委員・児童委員、保護司などの連携により、本人や保護者が相談しやすい体制づくりに努めます。</li> </ul> <p>④青少年健全育成事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年健全育成四万十市民会議を中心として青少年の健全な育成を図る事業の充実に努めます。</li> </ul>
3 家庭・地域の教育力の向上	<p>①家庭の教育力の向上支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不安や悩みを持つ親、孤立しがちな親などに対して、相談対応や学習機会の提供など、学校、家庭、地域等が連携して家庭教育支援に取り組めます。</li> <li>インターネット利用の問題に対する保護者の意識・知識を高めるため、「情報モラル教室」を実施します。</li> </ul> <p>②地域の教育力の向上支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会、民生委員・児童委員や保護司、女性団体、若者サポートステーション等と連携して地域の教育力の向上を図ります。</li> <li>開かれた学校づくり、学校での地域交流イベントや学校ボランティア活動、体験学習など世代間交流の拡充を図ります。</li> </ul>

## 政策7 地域文化の振興

### 施策18 地域文化の再発見・保全

#### 現況と課題

地域の自然環境と長い歴史の中で磨かれてきた地域文化は、先人から手渡され、次の世代に引き継いでいくべき大切な財産です。

四万十川流域には、地域の自然や地形に沿って継続してきた暮らしがあり、各時代の足跡を物語る有形・無形の文化財が残されています。市内には約250か所の遺跡と、有形文化財45件（うち国重要文化財3）、記念物26件、民俗文化財4件、文化的景観1件（国選定）の指定文化財があるほか、今に伝わる数々の伝統行事があります。

埋蔵文化財については順次調査を行い、その成果を整理・管理のうえ、学校出前授業や文化財めぐり、見学の受け入れを実施しています。中村城跡に建つ郷土博物館や権谷せせらぎ交流館で歴史・文化資料を展示していますが、資料数に対して十分な収蔵施設が不足しており、その確保が求められています。また、これまで十分に調査や掘り起しの行われていない歴史・文化についての調査の実施、利活用を含めた地域文化の再評価が必要です。

四万十川の景観は、流域5市町として平成21年に文化庁の重要文化的景観の選定を受け、本市では、独自事業として地図づくりやサイクルガイドの養成、沈下橋の修繕などを進めています。山村や漁村などには多様な地域文化が今も暮らしの中に息づき、観光や環境学習などにも活かされるなど、それらの営みが新たな文化創造につながりつつあります。

自然と共生してきた四万十川流域の生活文化には、世界に誇るべき価値があります。そのことを市民が知り、未来に引き継いでいくための仕組みづくりが必要と言えます。

#### ◆目標指標

指 標	現 況	目 標
地域文化に関する講座数	24回 (H30)	25回
博物館来館者数	3,777人 (R元年度上半期)	年間10,000人

#### 関 連 計 画

名 称	策 定 年	計 画 期 間
四万十川景観計画	H30	—
四万十川流域の文化的景観（保存調査報告書・保存計画書）	H20	—

## 主な施策

施策名	内容
1 文化財の保存	<p>①文化財の調査の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有形・無形・埋蔵文化財等の調査を計画的に実施します。</li> <li>博物館所蔵資料の調査・分析を計画的に実施します。</li> </ul> <p>②歴史文化の保存・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国・県・市指定文化財の増加に向けた取り組みを継続的に行います。</li> <li>指定文化財や博物館所蔵資料等の保存修理を計画的に実施します。</li> <li>四万十川の文化的景観の保全・継承に努めます。</li> </ul>
2 郷土文化の活用	<p>①地域文化の活用に向けた基礎資料の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内文化財の GIS (地理情報システム) を活用した一般公開等を推進するため、データの充実に努めます。</li> <li>市の歴史や文化、文化財等の調査結果を取りまとめた報告書等の刊行を計画的に行います。</li> </ul> <p>②文化財や資料の効果的な公開・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレットや地図など市の歴史や文化を伝える印刷物の作成やデータの公開を行います。</li> <li>学校や地域への出前授業、公開講座などを実施します。</li> <li>博物館での企画展示や資料の公開活用を推進し、博物館の利用を積極的に推進します。</li> </ul> <p>③歴史文化を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりや観光施策との連携した地域文化をまちづくりに活かす取り組みを進めます。</li> </ul> <p>④多様な地域文化の継承と創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館分館を活用して、地域の独自性を活かした行事（盆踊り、研修会等）の振興を図り、地域文化の保存・後継等を支援します。</li> </ul>



## 施策19

# 生涯学習・スポーツの振興

### 現況と課題

生涯を通じた学習、スポーツ活動は、市民の健康や生きがいを支えるのみならず、豊かな地域文化をつくっていく上でも大きな役割を担っています。

生涯学習については、本市では市庁舎の2階に図書館を設置し、多くの市民に利用されていますが、四万十川や幸徳秋水に関連する資料展示のほか、「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの頃からの読書習慣を重視していることも特徴としています。また、西土佐総合庁舎にも分館を開設し、地域間格差の解消にも努めています。今後も、市民のニーズを把握しながら、図書館環境の整備や多彩な事業の実施についてさらに充実を図ります。

文化・学習活動については、四万十市文化祭、四万十市美術展、四万十川国際音楽祭、四万十川こども演劇祭などの文化イベントに加え、中央公民館での各種講座・教室、ふれあいホール自主事業などを展開しているほか、市民の自主活動も盛んに行われています。しかしながら、受け皿となる施設の老朽化対策が課題となっています。今後は、文化複合施設の建設を進めるとともに、市民にとっての身近な居場所となることを期待し、施設提供事業、創造支援事業、参加・体験・育成事業、鑑賞・普及事業、交流・情報事業等を展開し、市民の文化芸術活動の振興を図ります。

生涯スポーツについては、市民スポーツセンター、四万十スタジアム、武道館のほか、学校体育館の開放も行っており、多くの市民が利用しています。また、(公財)四万十市スポーツ協会やスポーツ推進委員により、生涯スポーツの振興を図り、市民の体力維持や健康増進等に努めています。スポーツ関係者との連携やスポーツリーダーの人材確保のほか、施設の老朽化への対応が課題となっています。

さらに、安並運動公園体育施設を中心に大学等のスポーツ合宿誘致にも取り組んでおり、スポーツ合宿等を通じてスポーツの魅力の増進や本市の観光振興及び地域活性化につなげていく必要があります。

また、競技スポーツでは、陸上、水泳、ソフトテニス、カヌーなどの種目で優秀な成績を上げるなど、活発にスポーツ活動が展開されています。しかし、競技の多様化や低年齢世代におけるスポーツ離れにより、スポーツ少年団の団員数が減少するなど、少子化等に伴う影響が生じており、今後とも、スポーツ団体との連携を図りながら、スポーツ人口の確保及び競技力の向上に努めていく必要があります。

そのほか、四万十川ウルトラマラソン、四万十川リバーサイドフルウォークといったイベントが定着し、市外から多くの参加者があることも特徴であることから、市民協働による運営に努め、スポーツを通じた地域間交流を促進していく必要があります。

### ◆目標指標

指 標	現 況	目 標
図書館利用者登録率(人口比)	15.96%(H30)	17.2%
市民一人当たり貸出点数	4.89冊(H30)	5.07冊
ネット予約冊数	640冊(H30)	700冊
生涯学習講座の参加者数	311人(H30)	400人
1人当たりの社会体育施設利用回数(人口比)	4.7回(H30)	5.0回

### 関連計画

名 称	策 定 年	計 画 期 間
子ども読書活動推進計画	H29	H30~R4

## 主な施策

施策名	内容
1 誰もが参加しやすい生涯学習の推進	<p>①図書館活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民のニーズを把握し、図書館環境の整備や多彩な事業の実施についてさらに充実を図ります。</li> </ul> <p>②子どもの頃からの読書習慣の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブックスタート支援や読み聞かせ活動、図書の紹介のほか、学校や保育所等と連携した読書活動の充実など、人づくりの一環として読書習慣の定着を進めます。</li> </ul> <p>③文化・学習環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館分館、集会所等を有効に活用し、地域における文化・学習活動の充実を図ります。</li> </ul> <p>④学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民の学習に対する需要に適切に対応するため、必要な学習機会の提供の充実を図ります。</li> </ul>
2 芸術文化の振興	<p>①芸術文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央公民館及び文化センターにおいては、老朽化にともない文化複合施設として新たに整備し、管理運営方法及び施設利用ガイドライン等について検討するほか、西土佐ふれあいホールなどの環境整備等を進め、芸術文化活動の拠点充実します。</li> <li>市民が質の高い芸術文化に触れる機会を確保するとともに、芸術文化に関わる人材の育成、団体活動の支援を行います。</li> </ul>
3 健康とふれあいのための生涯スポーツの振興	<p>①市民一人一スポーツ（※）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康で明るく豊かで活力に満ちた「生きがい」のある社会をつくるために、「市民一人一スポーツ」を推進します。</li> <li>スポーツ施設の老朽化対策等として、計画的に維持改修に取り組みます。</li> </ul> <p>②競技スポーツの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年の健全育成や体力向上に加え、日本体育大学との連携事業などを活用し、指導者の育成や競技力の向上を図ります。</li> </ul>
4 広域スポーツの振興	<p>①本市ならではのスポーツイベントの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川ウルトラマラソンや四万十川リバーサイドフルウォークなど、本市ならではのスポーツイベントを開催することにより、地域間交流や地域活性化につなげていきます。</li> <li>体育施設の有効活用を図るとともに、スポーツ合宿の誘致活動（スポーツツーリズム）に取り組みます。</li> </ul>

※ 市民一人一スポーツ

心身ともに健康で活力ある生活を送るために、市民一人ひとりが最低一つのスポーツを行っている状態